



仙台・宮城元気ニュース

令和4年度第6号(通算第79号)
令和5年2月28日発行-隔月発行-
【発行】宮城県仙台地方振興事務所

～仙台地域の明るく元気な情報を発信！～

- 地振** 専門学校生考案メニュー「牡蠣の炊き込みご飯」がウジエスーパーで期間限定で販売中です！【地方振興部】・・・1
- 地振** 「MIYAGIでの働き方Real Talk Day」を開催しました！【地方振興部】・・・2
- 地振** 仙台地域産業人材育成プラットフォーム会議を開催しました【地方振興部】・・・2
- 水漁** 第75回奉獻乾海苔品評会が開催されました！【水産漁港部】・・・3
- 農振** 若手りんご生産者を対象としたりんごせん定講習会が開催されました【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】・・・3
- 農振** 「園芸特産振興研修会～肥料価格の高騰を乗り越ろう！～」を開催しました【農業振興部（仙台農業改良普及センター）】・・・4
- 林振** 「仙台管内きのこのこの日キャンペーン」を開催しました！【林業振興部】・・・4

専門学校生考案メニュー「牡蠣の炊き込みご飯」がウジエスーパーで期間限定で販売中です！▶地方振興部

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

地方振興部では、仙台農業テック&カフェ・パティシエ専門学校と連携し、地域食材の魅力を料理人の卵である学生や販売店等に知ってもらい、地産地消への取組を促進する活動を実施しています。

専門学校調理師科の学生が、7月に宮城県の牡蠣養殖について当所水産漁港部による特別講義を受け、11月に東松島産「牡蠣」を使用したお惣菜・お弁当のレシピコンテストに挑みました。当所副所長を審査員長として開催された審査会の結果、幅広い層をターゲットに、牡蠣と野菜の旨味を感じる一品をコンセプトにした「牡蠣の炊き込みご飯」が優秀作品に選ばれました。

そしてこのたび、審査会で選ばれたメニューが、ウジエスーパーにより商品として全店で販売されることになりました。3月8日頃まで県内全店舗で販売されていますので、この機会にぜひ栄養豊富な海で育った東松島産の牡蠣と味のほど良くしみ込んだご飯をご賞味ください。



受賞した専門学校生のチームと審査員



大ぶり牡蠣の炊き込みご飯（東松島産牡蠣使用）

「MIYAGIでの働き方Real Talk Day」を開催しました！

▶ 地方振興部



2月12日、仙台駅前SPACES仙台（ソラプラザ3F）で、「MIYAGIでの働き方Real Talk Day～将来のキャリアに対するモヤモヤ解消～」を開催しました。

地方振興部では、女子大学生の県内就職促進に取り組んでおり、大学生が県内で働くイメージを具体化するとともに、就職に向けた悩み・不安を明確化することを目的としたイベントとして実施しました。

イベントは2部構成で、第1部では県内の広告会社やITベンチャー、仙台に支店のある大手通信会社、大手総合商社など、県内の多彩な場所で働いている女性社会人から、「ぶっちゃけ仙台で働くってどうですか？」「結婚出産育児と仕事との両立について」「今、県内就職するとしたらどんな会社に行きたい？」などのテーマに沿って体験談をお聞きするパネルディスカッションを、第2部では小グループに分かれ、社会人一人ひとりとお話をする座談会を行いました。

学生からも多くの質問が出るなど、イベントは終始賑やかな雰囲気で行われました。

地方振興部では、引き続き女子大学生の県内就職を後押しするための取組を進めていきます。



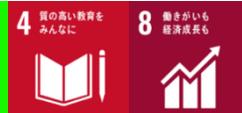
イベントチラシ



女性社会人のリアルな話を聴く女子学生達

仙台地域産業人材育成プラットフォーム会議を開催しました

▶ 地方振興部



2月7日、県仙台合同庁舎を会場に「仙台地域産業人材育成プラットフォーム会議」を開催しました。

この会議は、仙台地域の産業・教育・行政機関が連携し、高校生等の職業意識の醸成や、地域産業に必要な人材の育成・雇用・定着を推進する体制づくりを目的に、平成28年から、毎年開催しています。

会議には、高校の進路指導担当教員や公共職業安定所、市町村職員など26名が参加し、仙台地域の今春の高校卒業予定者の内定状況の説明や、高校1・2年生を対象とした地域産業説明会及び管内の高校と市町村等が連携して実施した企業説明会の報告がありました。

また、管内市町村からは、今年度、黒川地域の4市町村合同で企業説明会（黒川高校）を実施したという好事例が報告されるとともに、亘理名取地域でも企業説明会（農業高校、名取高校、亘理高校）が予定されているなど、各地域にこのような取組が波及していることが報告されました。

今後も、地域の高校と行政機関、企業間の関係を結ぶための支援に取り組んでいきます。



各機関の活動が参加者に共有されました

第75回奉獻乾海苔品評会が開催されました！▶水産漁港部

毎年恒例の「奉獻乾海苔品評会」の審査会が、1月6日に鹽竈神社で開催されました。この品評会は、乾海苔の品質と漁業者の生産意欲の向上を目的に、昭和23年に第1回が開催されて以来、今年で75回目となります。審査会の会場は、直近2年は新型コロナウイルス感染症対策として、3密を避けるため、会場の広いJFみやぎ塩釜総合支所で開催されていましたが、今年は感染症対策を十分講じたうえで、従来実施していた鹽竈神社で3年振りに開催されました。

今シーズンの海苔は、当初海水温の低下が例年よりも遅れたことや、漁場の栄養塩が低下したことにより、漁期序盤に生育不良や色落ちが見られましたが、12月上旬頃から海況が好転し、色・艶ともに優れた海苔が多数生産されています。

審査会には県内の生産者から98点の出品があり、厳正な審査の結果、優賞にJFみやぎ仙南支所（巨理）の木村清一氏、準優賞には同七ヶ浜支所代々崎浜地区の坂本寿氏が選ばれました。

表彰式は1月11日に鹽竈神社で開催され、両氏に表彰状が手渡されました。

優賞・準優賞となった乾海苔は2月27日に皇室に献上されました。



▲審査員による慎重な審査
▶優賞の木村氏（右）
準優賞の坂本氏（左）



若手りんご生産者を対象としたりんごせん定講習会が開催されました ▶農業振興部（巨理農業改良普及センター）

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

1月20日、巨理名取果樹振興協議会主催で、若手りんご生産者（就農して概ね10年程度の生産者）を対象としたりんごせん定講習会が開催されました。当日は、7人の若手生産者が参加しました。

参加者から、隣接樹間伐の有無によるせん定方法の違いや更新枝の作り方のポイントなど多くの質問が出され、講師から丁寧な解説がありました。

当普及センターでは、今後も管内のりんご生産の支援を行っていきます。



講師による実践的指導が行われました

「園芸特産振興研修会～肥料価格の高騰を乗り切ろう！～」を開催しました▶農業振興部（仙台農業改良普及センター）



2月1日、せんだい農業園芸センターを会場に、当普及センター主催で「園芸特産振興研修会～肥料価格の高騰を乗り切ろう！～」を開催し、管内の農業者やJA等関係者を合わせて42名が参加しました。

近年、肥料等の価格が高騰し、農業経営に深刻な影響を与えています。そこで、本研修会では、水田転作による野菜を対象として、「肥料コスト低減につながる技術」をテーマに、雪印種苗株式会社植物機能性研究グループ係長の和田美由紀氏と県農業・園芸総合研究所の瀧上席主任研究員にご講演をいただきました。

和田氏からは、昨今、農業者の関心が高まっている緑肥作物の栽培のポイント等についてご説明いただきました。緑肥とは、栽培した作物をそのまま土壌にすき込むことで、肥料として活用することをいいます。また、緑肥作物は土質の改善、病害虫の抑制、土壌の流亡防止など様々な効果も期待でき、SDGs推進の取組としても注目されています。

参加者からは多くの質問が出され、有意義な研修会となりました。



緑肥を使った栽培を分かりやすく説明する和田美由紀氏

熱心な質疑応答が交わされました

「仙台管内きのこの日キャンペーン」を開催しました！▶林業振興部



10月15日の「きのこの日」にちなみ、管内で生産されたきのこをPRするため、令和4年10月15日から11月15日までの間「仙台管内きのこの日キャンペーン」を開催しました。キャンペーンでは、対象商品に貼付されているシールを5点以上集め、応募すると抽選で2,000円分の商品券が5名様に当たる企画を実施しました。

キャンペーン期間には、共通のシールが貼付されたきのこが直売施設やスーパー等に並ぶ様子を見かけた方も多かったのではないのでしょうか。

1月20日に当所副所長らによる厳正なる抽選を行った結果、応募総数73通の中から5名の当選者が決定しました。

ご参加くださった皆様、誠にありがとうございました。今後とも、林業振興部では、地元産きのこの普及PRに努めてまいります。



キャンペーンチラシ

キャンペーン中に販売されたきのこ

抽選会の様子